

## 生徒全員が偏りなく学習に参加し、 先生は生徒一人ひとりときめ細かくつながりを持てる



白鷗大学足利中学校は、栃木県の南西部、日本最古の学校として知られる足利学校の史跡が残る足利市にあります。同校では2022年（令和4年）から全学年でiPadとApple Pencil、MetaMoJi ClassRoomを使い始めました。

### 卒業制作として「仮囲いアート」を描く

本記事の取材を実施した2023年秋には、現校舎の隣で新校舎の建設工事が進められていました。新校舎での学びは2024年4月に始まります。工事現場に設置されている仮囲いには、カラフルなイラストのパネルが6枚。このパネルは、2023年3月に卒業した生徒たちの卒業制作です。

この卒業制作について、同校でICT教育を担当する星野進教諭はこう振り返ります。「当時の3年生が6班に分かれ、班ごとにテーマを決めて、MetaMoJi ClassRoomの白紙のページに絵を描きました。拡大縮小ができて描きやすく、絵が苦手な生徒も話し合いながら楽しく描いていた様子です。基本的には総合学習の時間に制作しましたが、ちょっとした空き時間に描いたり、受験などでその日に不在の生徒も自分の都合の良いタイミングで参加できました」。



「仮囲いアート」は、卒業生がMetaMoJi ClassRoomで制作

### グループ学習ページでアイデアを出し合う

前述の仮囲いアートでも、また日頃の授業でも活用されているのが、MetaMoJi ClassRoomのグループ学習ページです。

1年生の国語の授業では、「印象を表すさまざまな言葉」の学習をしていました。先生は、用意したワークシートをグループ学習ページに設定します。生徒は班に分かれ、「動物の印象を

表す言葉」や「印象を表す言葉を使った短文」を班のメンバーで話し合いながら1つのページに書き込んでいきます。ユニークな短文を考えて、楽しそうに盛り上がる班も見られました。グループワーク終了後は、順番に各班のページを教室前方の大型モニタに映して、全員の前で発表します。



大型モニタに各班のページを映して発表

### 導入のポイントは協働学習の柔軟性

この授業を担当した国語科の宮谷晴子教諭は「MetaMoJi ClassRoomが導入されてからはグループ学習実施のハードルが低くなりました。また、グループ学習ページを使うと、口頭ではなかなか意見を言えない生徒も書き込めるし、手書きが苦手な生徒は画面上のキーボードで入力できるので、全員が発言できます」と協働学習の成果を語ります。

同校のICT教育担当で理科の宮田英史教諭は「授業支援アプリ選定のポイントは、協働学習がいかに柔軟にできるかということでした。複数のメンバーが1つのページに同時に書き込むことで分析や収集を実践し、それが新しい価値の創造へとつながるからです。少人数の班に分けて実施すれば、作業や考察が1人の生徒に偏ることは少なく、全員が参加できます」と、同校が目指す協働学習のあり方と、その実現を支援するためにMetaMoJi ClassRoomを導入した経緯を述べました。

## 学校の長年の宝物、「文学史かるた」を MetaMoJi ClassRoomで実施

同校では、MetaMoJi ClassRoomのグループ学習ページを使って「文学史かるた」を実施しています。

全員が自分のiPadで数十枚の取り札が並んだページを表示し、班内の他の人と重複しないように自分のペンの色を決めます。取り札には、文学作品のタイトルとそれにちなんだ絵柄が描かれており、先生が「国木田独歩の愛する林、秋から冬の美しさ。『武蔵野』」のように読み札を読み上げ、生徒は取り札を見つけたら自分のiPadで札に丸をつけて札を取り合います。

この「文学史かるた」は40年ほど前に同校の文芸部の生徒たちが作ったものです。札は全部で140組あり、1年生から「文学史かるた」を始めて、3年生までに大学受験程度の範囲に相当する文学作品を記憶できるそうです。

この日、3年生の授業をかるたを実施した国語科の下位翔大教諭は「コロナ禍で生徒が登校できず、登校再開後も密を避ける必要があったため、紙のかるたを使えなくなりました。そこで、取り札をすべてスキャンしてMetaMoJi ClassRoomのページに並べ、リモートで実施できるようにしました。通常授業に戻った現在も、欠席している生徒が参加できるのでよかったと思います」と説明します。



自分のペンの色を決めて札に丸を付けて、札を取り合う

### 思いのままに手書きできるノートで学ぶ

生徒一人ひとりが自分のページに書き込む「個別学習ページ」を利用した協働学習も実践されています。

1年生の理科の授業では、以前に実施した実験の振り返りをしていました。実験の様子は生徒各自が個別学習ページに記録してあります。班ごとに分かれた生徒たちはiPadの画面で互いのノートを見せて話し合い、その後、各班がクラス全員の前で発表しました。各自のノートはペンの種類や色がそれぞれに工夫されています。

この授業を担当した宮田教諭は、「将来的に生徒が受ける入学試験は手書きですから、導入にあたっては手書きが自由にできることを重視しました。」と語ります。



生徒は各自ペンの種類や色を工夫しノートを作成している

### 夏休み中のコミュニケーションにも活用

同校では夏休みにすべての学年の生徒が、その日の学習や出来事を毎日、「実践記録」として記録しています。以前は紙でしたが、これをMetaMoJi ClassRoomに置き換えました。このやり方なら実践記録を先生のiPadで閲覧できるため、夏休み中の生徒の様子が変わり、安否確認もできます。先生は生徒の記録にコメントを書き込んだり、数日間記録が更新されない場合に保護者に連絡をとるなどの対応ができるほか、全員に対して表示される連絡事項を伝えるなど、リモートでのコミュニケーションツールとしてもMetaMoJi ClassRoomが活用されています。



社会科主任  
タブレット適正運用委員  
ICT教育担当  
星野進教諭



国語科主任  
タブレット適正運用委員  
ICT教育担当  
宮谷晴子教諭



理科主任  
タブレット適正運用委員  
ICT教育担当  
宮田英史教諭



国語科教諭  
校務学習システム担当  
ICT教育担当  
下位翔大教諭

### お客様プロフィール

#### 白鷗大学足利中学校

所在地：栃木県足利市伊勢南町 4-3

URL：<https://www.hakuoh-j.jp>